

# 頭陀袋（3）

発行 中山かんのん

恩林寺

中山中学下、電話三四一一四五

帰依・帰命・帰敬、

南無阿弥陀仏、南無釈迦牟尼佛、南無妙法蓮華經などの最初の部分「南無」はインドの言葉でナマスを音写したもので漢訳すると「帰命」になります。

意味は「帰依」と同じといえましょう。

帰依とは『優れたものに帰順し、寄りすがること』だそうです。辞書には帰は帰投、依は折伏のこと、すなわち絶対の帰順を意味するともありました。そんな説明ではわからなくなってしまいますね。私は『あなたを信じてお任せしますのでお導きのほどよろしくお願ひします。』ということだと思っています。南無は帰依と同じですか

ら仏法僧の三宝には、南無をつける代わりに帰依をつけても同じです。つまり、南無仏でも帰依仏でも同じ、南無法でも帰依法でも同じです。南無帰依仏というのは同意語をダブらせることにより意味を強める効果を狙った表現といえましょう。ところで優れた人に帰依し敬礼することを帰敬といいます。「帰敬偈」は経典の冒頭にあって、仏、菩薩に対し帰依敬礼を示す句ですし、帰敬式といえれば在俗の男女が、仏に帰依して仏弟子になる儀式を言いますね。坊さんになるのには剃髪、受戒をいたしましたが淨

おしゃうさんと  
正<sup>おてら</sup>に行こう。  
友達になろう。  
ともだち



ません。髪を剃る真似事をして法名を与えるだけなので受戒と言わず帰敬式というようになりました。

いずれにしても仏をよりどころとし、仏の命に生き、仏を敬つてやまないのが私たち佛教徒です。

帰依、帰命、帰敬のどれもが「帰」がついでいるのは「仏様の元に帰る。」という意味がふくまれているからではないでしょうか？  
仏子たる私たちはこの世に生きているうちから仏の家を我が家とし、仏の元から「いつきます。」「ただいま」を繰り返す日々を送ることにいたしますよう。

\*反省\*

先日、ある雑誌を見ていたら、博多の仙崖和尚が書いておられる言葉が紹介されておりました。なるほどそのとおり。いちいち思い当たることばかり。少し反省いたしました。その言葉を紹介いたしましょう。

聴きたがる。淋しがる。でしゃばりたがる。  
世話を焼きたがる。くどくなる。

気短になる。愚痴になる。心がひがむ。  
欲深くなる。またしても同じ話になる。  
孫をほめる。

達者自慢に人は嫌がる。

仙崖